

経済社会学会編

発展の現代理論

経済社会学会年報 XI

1989

経済社会学会
現代書館発売

目次

〈共通論題〉 発展の現代理論

現代中国における〈発展〉の構図

コメント

発展論の再構築——新興工業国・地域群（NIEs）の経験を踏まえて——

コメント

発展と自己組織性

コメント

「後発性利益」の再検討——社会システム論の視点から——

コメント

進化の理論と社会の理論——社会進化論の一側面——

コメント

消費社会の変容と発展——脱大衆社会論の検討——

コメント

総括

〈自由論題〉

ポランニーの経済社会学思想——経済に対する社会学的視点——

グスタフ・シュモラーの社会階級論——シュモラー生誕一五〇周年を記念して——

都市型生活におけるライフスタイルの確立

市場メカニズムと土地問題

園田茂人……………7

加々美光行……………25

内藤能房……………28

長谷川啓之……………50

今田高俊……………53

永安幸正……………68

織田輝哉……………76

小倉充夫……………93

上山隆大……………96

松岡雅裕……………116

問々田孝夫……………119

小沢雅子……………138

富永健一……………141

恩田守男……………147

田村信一……………157

岩田若子……………167

海野和之……………178

「韓国的経営」と「日本的経営」の同質性と異質性
 雇用構造のフレキシブル化
 環境の質と経済発展——環境の経済社会学的考察——
 産業社会の近未来

〈自由投稿〉
 近代化過程の数量分析——その現状と課題——

〈研究ノート〉
 消費社会の現在
 サービス経済化の問題設定
 DDⅢ（第3次国際連合開発年）と社会科学の課題

〈書評〉
 鉢野正樹著「現代ドイツ経済思想の源流」
 A・リーツ著、生越利昭・竹下公視訳「所有論」

〈学会記事〉
 〈経済社会学会会則〉

〈編集後記〉

編集後記
 今号は、共通論題論文が6本、自由論題論文9本、研究ノート3本といずれも前号を上回る掲載数になった。そのために、執筆者には紙幅制限で多大なご協力を戴いた。
 さて、原稿締め切り日に情けは無用とは、ベテラン編集者の弁であるが、それを今回ほど思い知らされたことはない。原稿締め切日には、嫌味の二三言で執筆者を怒らせて、発奮させることが最も効果的であると聞いた。編集途上で泣いて、予定刊行日の本の完成に非礼を詫びて執筆者共々笑う、これが「編集の極意」のようである。今回は、入稿予定日を過ぎてもニコニコしていた為に、結局、再校・三校を編集委員会がやるハメになった。これでは編集委員の全員が逃げ出すこと、必至である。締切日の厳守を乞う。
 小泉理事は、長年「年報」編集委員長として、ベテラン編集の手腕を奮われてきたが、体調を崩されて、今号から編集委員を降りられた。同理事が果たしたこれまでの貢献に敬意を表したい。小泉理事の後、西部から野間理事・郡高幹事、東部から園田幹事が加わり、万全の体勢がひかれた。当学会は、今、急速に会員を増やしている。この「年報」編集にも、一層の斬新さが望まれる。会員諸氏の忌憚のないご意見をお寄せ戴きたい。
 今号から、目次の組み方を変え、裏表紙に英文目次をつけた。総ページ数、二六八頁。前号に、ピタリと同じ。「現代書館」の菊地氏に色々ご便宜戴いた。
 (宇佐見義尚記)

発展の現代理論 経済社会学会年報 XI 定価3500円

1989年9月30日 初版第1刷発行

編者 経済社会学会編集委員会
 編集者代表 宇佐見 義 尚
 発行者 内 海 洋 一

〒657 神戸市灘区六甲台2-1 神戸大学経済学部欠付

経済社会学会

発売所 株式会社 現代書館
 東京都千代田区三崎町2-2-12

電話(03) 261-0778 振替東京 2-83725

写植 一 ツ 橋 電 植
 印刷所 平 河 工 業 社
 製本所 越 後 堂 製 本

宇佐見義尚	274	織田輝哉	241	谷口典子	188
福田敏浩	278	園田茂人	241	齋藤幹雄	199
		宮本光晴	253	瀬川 肇	216
		元木 久	257	大橋照枝	229
		西山俊彦	266		